

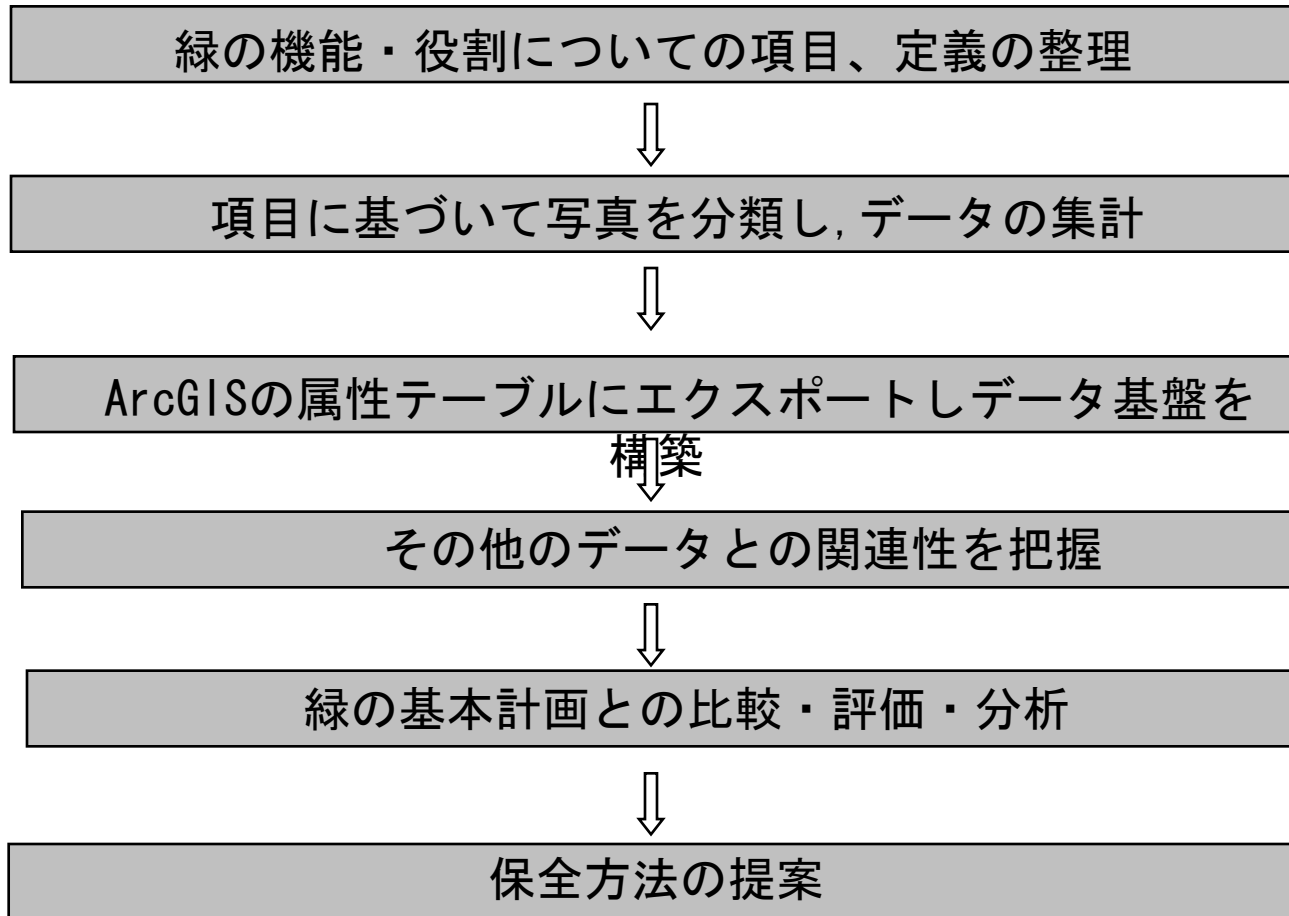
緑地の機能と視覚的効果に着目した
緑地保全方法に関する研究

1. 研究背景と目的

近年、環境保護の意識が高まり、緑地減少の問題が大きく取り上げられている。このことは生態系のみならず、人々の生活までも影響を及ぼしている。

そこで本研究では、大分市に存在する緑地を撮影した写真を用いて、視覚的に撮影地点の緑地の機能・役割を分類することにより、「大分市緑の基本計画」や自然環境情報GISなどの情報との関係を明らかにし、緑の機能に着目したより具体的な緑地保全方法の提案を目的とする。

研究のフロー



緑の機能と役割

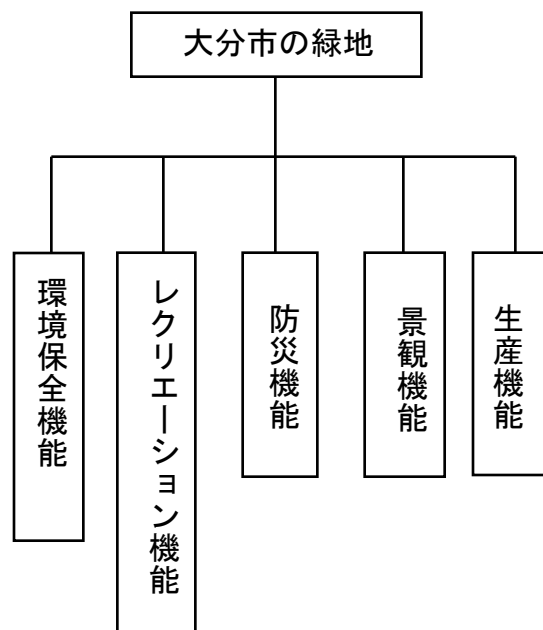


図1 緑の機能

表1 各緑地に期待できる緑の機能

環境保全機能	山 河川	平地林 社叢林	丘陵 池	池
レクリエーション機能	公園	広場	校庭	
防災機能	山 屋敷林	平地林 生垣	丘陵 河川	
景観機能	山	水田	畑	街路
生産機能		水田	畑	

緑の機能と役割の項目設定は、複数の「緑の基本計画」や保全計画、既往研究などを参考にした結果、図1に示す5機能を設定し、各機能を持つ緑地の種類を表1にまとめた。

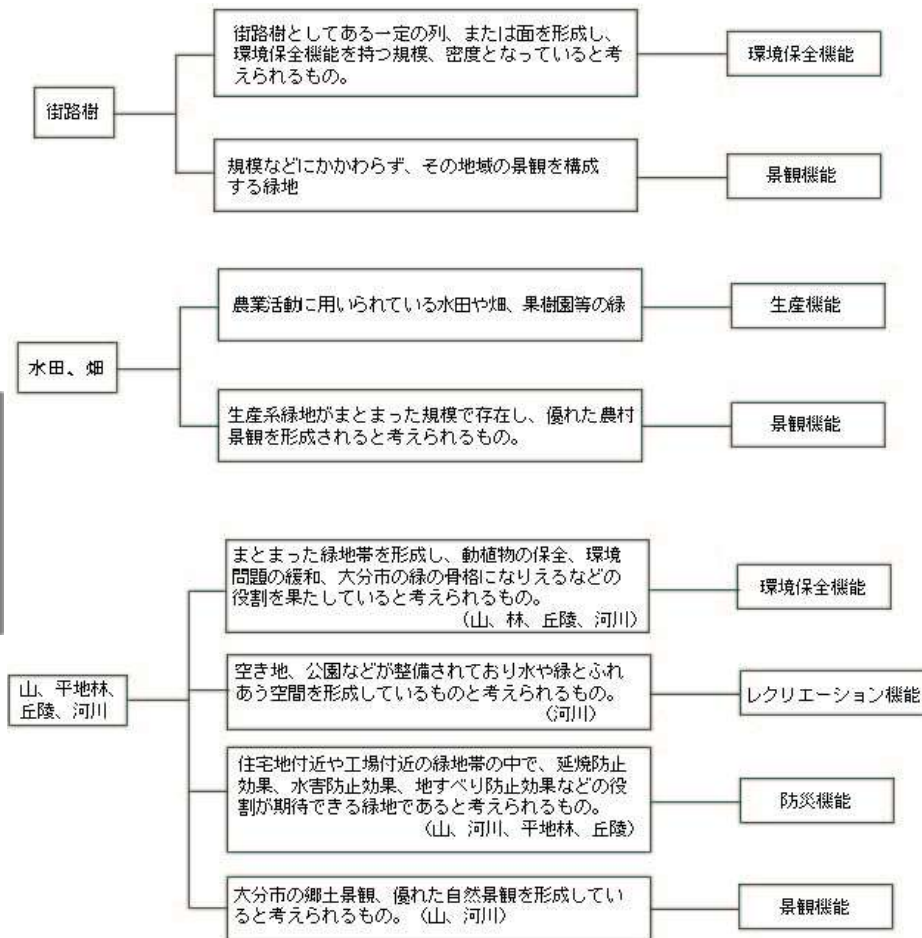
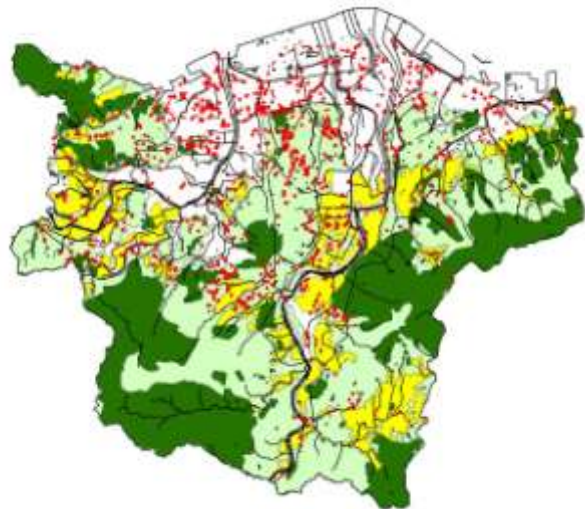


図2 画像分類フロー

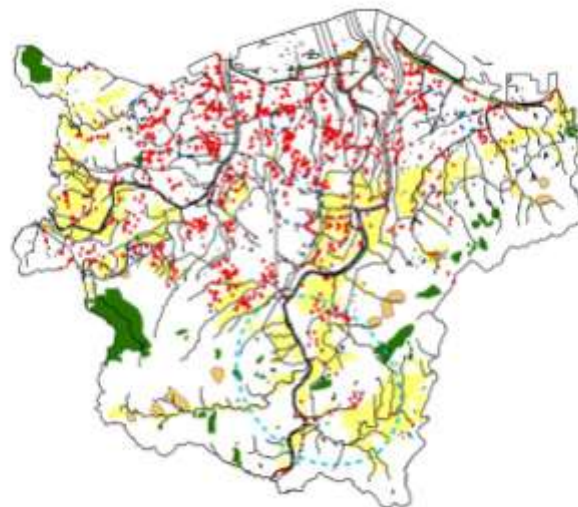
画像に写っている緑地の種類によって、その緑地がもつ機能の有無を判別。

(画像28)

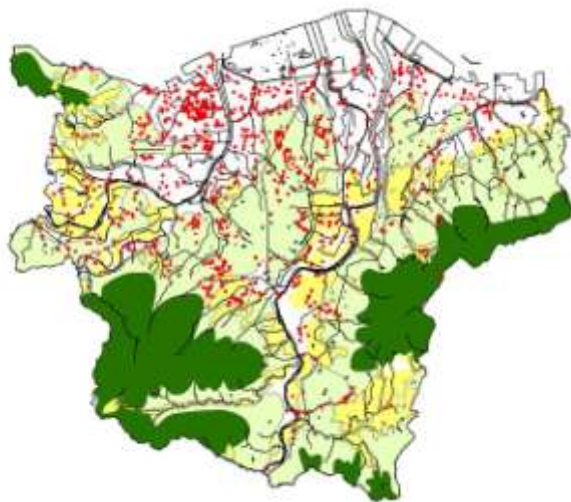
緑の基本計画（系統別配置方針図）



環境保全系統-環境保全機能



防災系統-防災機能



景観系統-景観機能

指定ゾーン外にも多くのポイントが存在しており、さまざまな機能が混在していることがわかる。



現状の緑地の状況を把握した上で保全方法の計画が必要。

緑の基本計画（総合的な配置方針図）



図2 総合的な緑の配置方針図－撮影地点

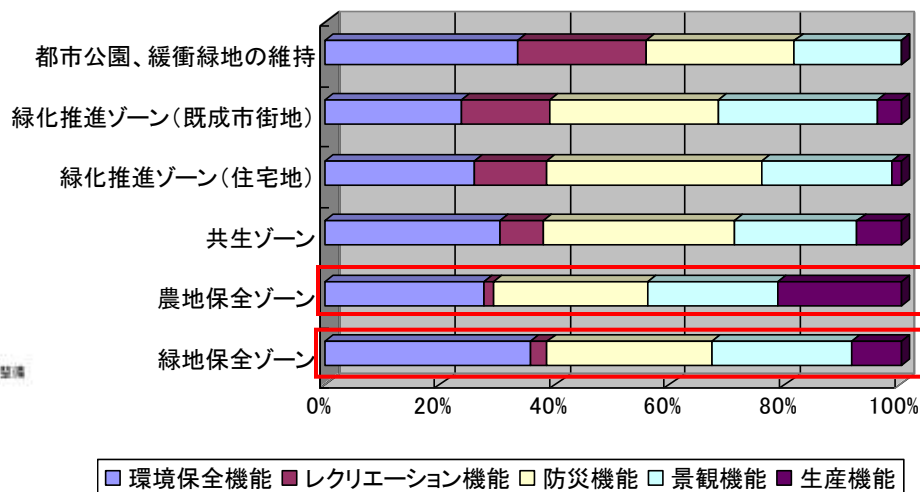
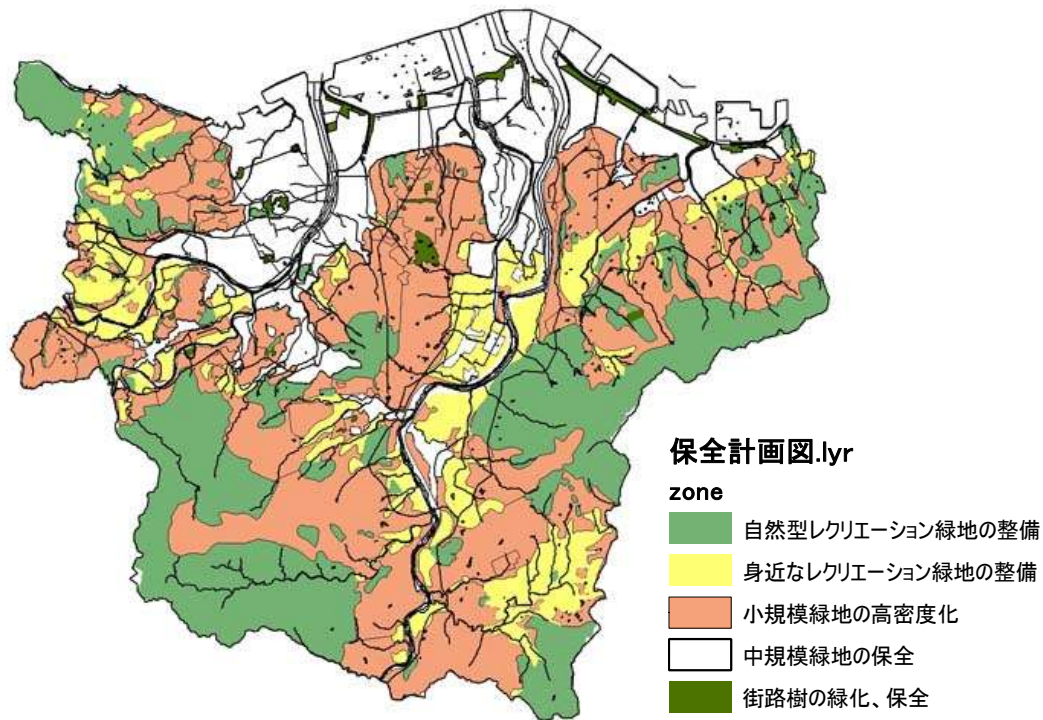


図3 総合的な配置方針図と緑の機能

「農地保全ゾーン」「緑地保全ゾーン」といった豊かな自然と住宅地が混在する地域では、広場、公園などのレクリエーション緑地が少なく、防災などの面から見ても十分な整備が必要であると考えられる。また、都市公園を中心とした市街地周辺にも環境保全効果のある緑地が整備されつつあるが、開発の行われやすい既成市街地、住宅地ゾーン周辺では、環境保全機能が期待できるまとまった緑地の保全が必要であると考えられる。

緑地の現状と機能からみた保全計画図



緑の基本計画をもとに、緑地の現状、機能を考慮に入れた具体的な保全計画図を作成。

総括・課題

本研究では、緑地の写真を視覚的に分類し、撮影地点の属性としてGIS上で管理することによって、「大分市緑の基本計画」に定められている各ゾーンにおける緑の機能の割合を明らかにした。結果、機能別に定められたゾーンの中にもさまざまな機能の緑地が混在しており、効果的な緑地の保全・推進には、現在定められている「緑の基本計画」に加え、緑地の現状を把握し、緑の多面的な機能を考慮に入れた計画を進めることが有効的であることが明らかとなった。

今後の課題としては、撮影ポイントの均一化、緑地の機能に関する定義の専門家による環境学からのアプローチを行うことによって、さらに信頼性のある結果が得られると考えられる。